



## 農業と福祉の連携で福島を元気に！！

昨年は新型コロナウイルスの感染拡大により、各種イベントの中止や販売会の開催も思うに任せずさまざまな影響を受けた一年でした。

現在も二度目の緊急事態宣言が発出されるなど、終息が見通せない中ではありますが、感染予防対策をしっかり行いながら活動していきたいと思えます。

さて、本年度の『農福連携事業』も、間もなく終盤となりまとめの時期を迎えます。

この間、「就労支援マッチング」「アドバイザーの派遣・研修会の開催」「農産物の6次化支援」「マルシェの開催」等の事業を行いながら、『農福連携事業』の啓発・推進に努めています。

本事業も5年目を迎え、事業所の皆様はじめ関係機関の皆様に支えられ、ご理解とご支援の広がりを感じています。特に「就農支援・マッチング」においては、派遣依頼件数98件・延べ派遣人数3,211名（12月末現在）を数え、作業の少ない時期（冬季～春先）に作業依頼をいただいた果樹園内の作業も年間を通じて作業依頼をいただくなど、安定した作業依頼・派遣につながっています。

また、JA全農福島様や行政・協力者を通じて情報をいただいた、浜通り・郡山・白河・喜多方各エリアの農業法人・JA選果場・農家等からも作業のご依頼をいただき、課題の一つである「エリアの拡大」「作業依頼の情報収集」についても、関係機関との連携により一定の方向性が見出せたように感じます。

なお、前年度より連携を進めている団体とセミナー・講演会などの『農福勉強会』も共催により実施するなど連携の広がりとともにその重要性も実感しています。

今後も、6次化製品のブランディングや販売強化を念頭に基本となる『4つの事業』それぞれに調整・推進をはかりながら、「農業」と「福祉」の双方により良い関係性を構築するため共に歩んでまいります。

『農福連携事業』に関するお問い合わせ、ご意見など皆様の“声を”お聞かせください。



（担当：農福連携総括コーディネーター 渡部 栄昭）

### 《事務局から》

当県においても、新型コロナウイルスの感染が拡大しており、1月末に開催予定をしていた施設関係職員等研修会を中止にせざるを得ませんでした。授産施設新製品(商品)開発コンクールの審査会のみ実施いたします。研修会の開催前に表彰式を行っていましたが、今回は受賞施設に個別に表彰伝達をさせていただきます。結果につきましては、ミニ通信号外にてお知らせします。